別　添

# 職場における熱中症による死傷災害の発生状況

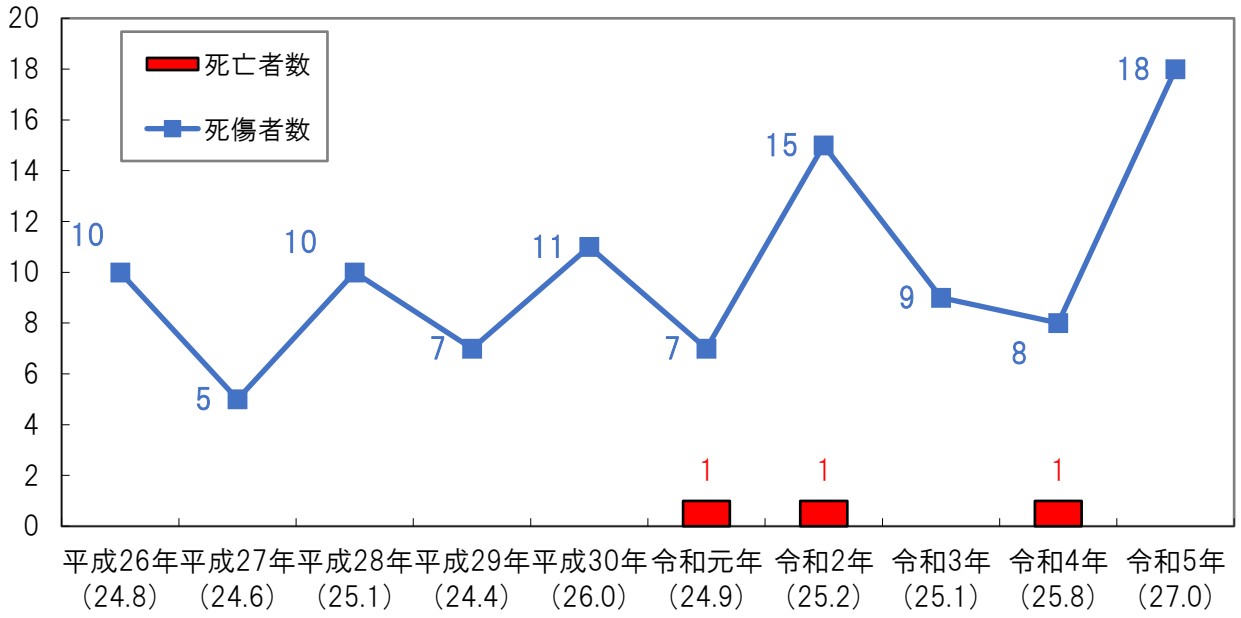
令和６年４月
富 山 労 働 局

## １　職場における熱中症による死傷者数の推移（過去 10 年間）

富山県内における、令和５年の職場における熱中症による休業４日以上の死傷者数は、死亡者はいなかったものの、令和４年より 10 人増加して 18 人となり、過去 10 年間で最多となった。

令和５年は、夏季（６月～８月）における平均気温が過去 10 年間で最も高く、いわゆる猛暑（酷暑）であったことが影響し、死傷者数が増加したものと考えられる。

職場における熱中症による死傷者数（H26年～R5年）

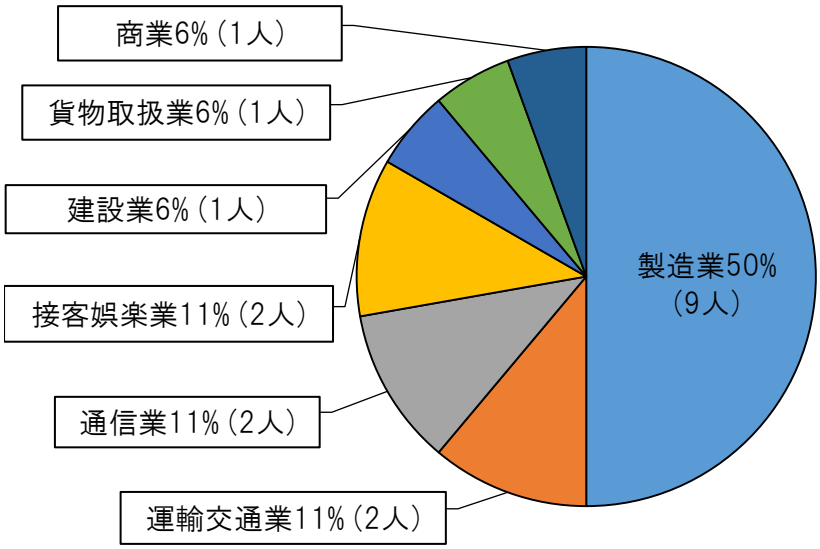



※ 括弧内の数値は６月～８月の平均気温（℃）を示す（気象庁ＨＰの気象データから引用）

## ２　業種別発生状況

令和５年の死傷者数を業種別にみると、最多は製造業の９人で、全体の半数を占めている。次いで運輸交通業、通信業及び接客娯楽業で各２人、建設業、貨物取扱業及び商業で各１名となっている。

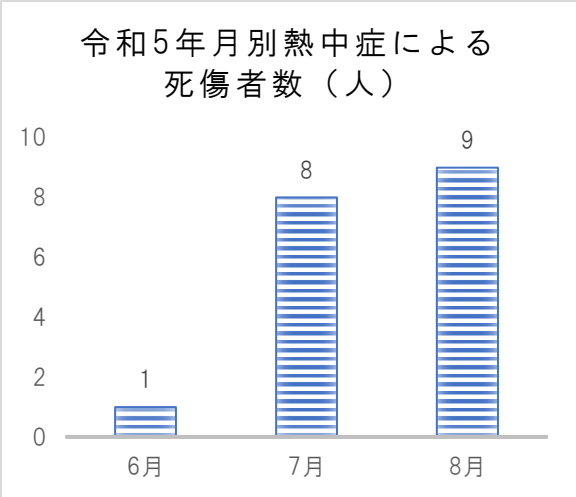
令和5年業種別熱中症による死傷者数（人）

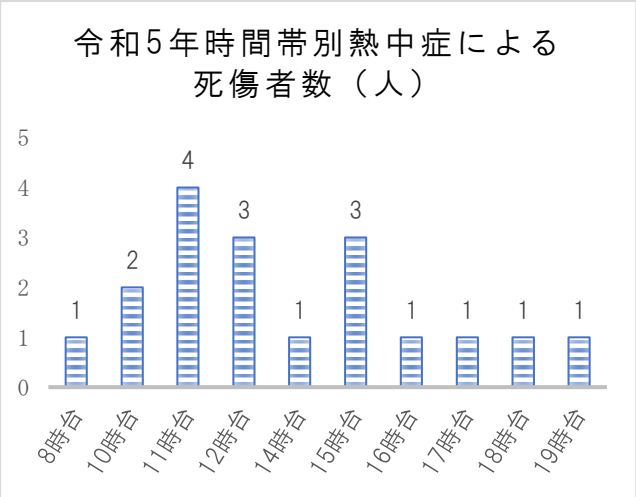



## ３　月別・時間帯別発生状況

令和５年の死傷者数を発生月別にみると、全体の９割以上が７月及び８月に発生している。

また、時間帯別にみると、午前では 11 時台、午後では 15 時台が他時間帯より多くなっている。８時台や 17 時台以降に発生しているものについては、体調不良を認識しつつも終業時刻まで勤務を行い、帰宅後に悪化したものや、翌日も体調が回復しなかったものである。

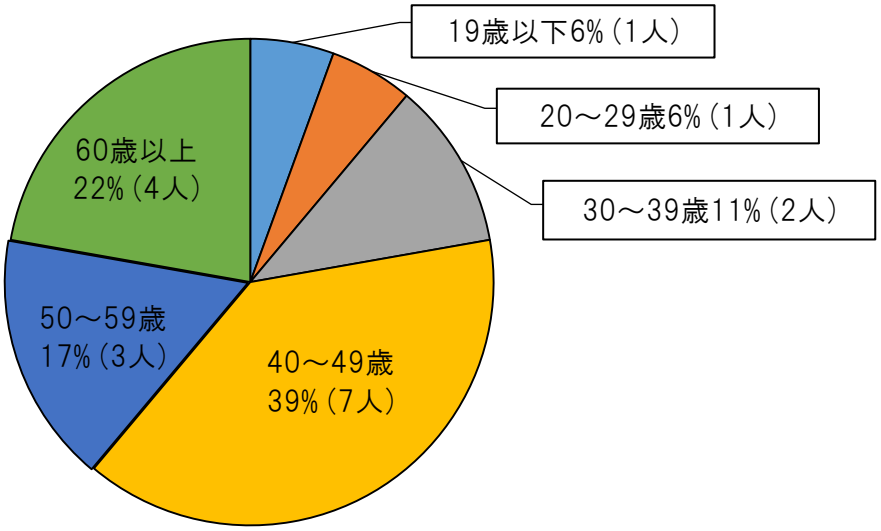


## ４　年代別発生状況

令和５年の死傷者数を年代別にみると、40 歳代が７人と最も多く、次いで、60 歳代の４人、50 歳代の３人となっている。

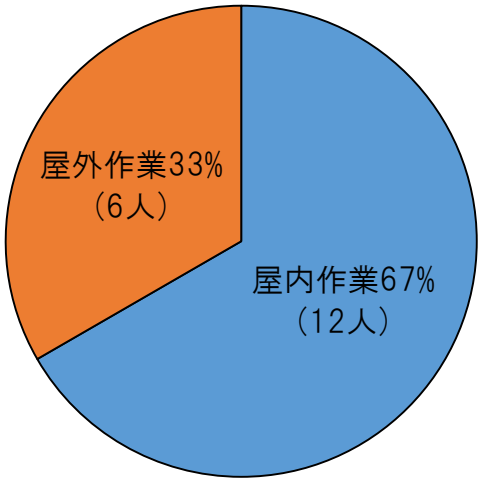
令和5年年代別熱中症による死傷者数（人）




## ５　被災者の従事業務の屋内外別の状況

令和５年の死傷者数を従事業務の屋内外別にみると、屋内作業が 12 人、屋外作業が６人となっている。

令和5年屋内外別熱中症による死傷者数（人）



## ６　熱中症による死亡災害事例（過去 10 年間）

過去 10 年間における死亡者の事例は以下のとおりである。
いずれも単独作業時や一人でいるときに発症・重篤化している。

| 発生年月 | 業種 | 年齢 | 経験年数 | 気温 | 湿度 | 事案の概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R元．6<br>13 時台 | 製造業 | 40 歳代 | 1年未満 | 29.8℃ | 77% | 暑熱な工場内での業務を終了し、帰宅のため駐車場に向かったところ、駐車場で倒れ、病院に搬送されたものの、熱中症が原因で死亡した。 |
| R2．5<br>19 時台 | 製造業 | 30 歳代 | 9 年 | 29.7℃ | 59% | 午前中から、直射日光の下、屋外で機械修理を行っていたところ、正午過ぎ頃までに体調不良となり、事務所で休憩していたが、症状が回復せず、夕方、救急車で病院に搬送されたものの、熱中症が原因で死亡した。 |
| R4．6<br>18 時台 | 農業 | 50 歳代 | 33 年 | 29.3℃ | 68% | 農場の見回りに行った被災者が、農場近くの路上で、社用車の中でぐったりしているところを発見され、その場で死亡が確認された。<br>屋外作業を行っていたことなどから、死因は熱中症とされた。 |